

生月病院

生月病院は生月島唯一の入院施設を有する病院です。

「多職種連携」を掲げており病院全体の雰囲気がよく、17年間勤務されている院長先生をはじめとした生月病院の職員の方々は島民の患者さんをほとんど知っており、非常に感銘を受けました。



研修先の病院ではなかなか見ることができない風景を生月病院で見ることができ、充実した研修生活を送ることができました。

生月島は特にパワースポットの多い島で、塩俵の断崖や最北端の大バエ灯台、そして車のCMでよく使用される生月サンセットウェイなどの絶景はもちろん、生月大観音やガスバル様、山田教会など、歴史ある建造物も盛りだくさんで、ぜひとも一度は足を運んでいただきたいような島です。

平戸のグルメに関しては、海鮮や平戸牛、ちゃんぽん皿うどん、ラーメン、焼鳥、バル、カラオケスナックなど・・・とにかく最高でした。

おいしい食事たちにただただ舌鼓を打つばかりで、研修序盤から飛ばしすぎて胃袋がかなり大きくなってしまいました。(約1名)

素晴らしい研修をさせていただき、本当にありがとうございます。

生月島を出てしまうのは非常に寂しいですが、また機会がありましたらぜひとも訪れたいと思いますので、くれぐれも私たちのことを忘れずにいていただけたら幸いです。

白濱 つづり (長崎医療センター)

堀 裕太郎 (埼玉医科大学病院)



青洲会病院

平戸瀬戸を眼前に望む青洲会病院で1か月間の研修を行いました。訪問診療、訪問看護、

訪問リハ、離島診療所をはじめ、介護老人保健/福祉施設、デイサービスにも関わりました。大都市の急性期総合病院で研修を行ってきた身としては、医療スタッフ・患者間の「顔の見える信頼関係」が緊密に築かれていることが新鮮であり、一人の人間として患者と最後まで付き合っていくという医療本来の姿を、地域医療の中に見たような感もあります。また、離島診療所で会う高齢者の方々がみな大変元気であったことも驚かされました。大都市圏では考えられないことです。休日は平戸島や生月島を周遊したり、佐世保、長崎、果ては福岡まで遠出したりなど、余暇を満喫しました。平戸の9月はあご魚の最盛期を迎えており、夜の魚市場で目にした、銀色に輝くあごの山は感動的でした。米も収穫の季節で、一面に広がる金色の水田やハサ掛けの光景などは鮮明に記憶に残っています。平戸の方々の優しさや明るさ、そして長寿と健康は、風光明媚で豊かな環境から自ずと育まれたものなのかもしれません。最後になりましたが、私たちに貴重な研修の機会を与え、指導して下さいましたすべての方々に御礼申し上げます。

今井 亮太郎 (横浜労災病院)

松波 めぐみ (福岡青洲会病院)



平戸市民病院

九月は4人の研修医がお世話になりました。

最初はお互い様子を伺いつつ、話しかけていましたが、すぐに打ち解け仲良く楽しく研修をさせていただきました。先生方も気さくな方が多く、私たちのやりたいことや学びたいことに積極的に答えて下さり、充実した研修が送ることができたと思います。

最初は戸惑いを感じることもありましたが、患者さんや先生方と触れ合い勉強していく中、私たちが普段研修している病院とは違う形の医療が要求されていることを実感しました。

今後の医学生人生に1か月の経験を生かして、研鑽を積んでいきたいと思います。余談になりますが、平戸にはおいしい食事が多く、特に魚が美味しかったです。病院の側の隠れ家的な居酒屋では何度、食事をお世話になったかわかりません。笑。そこでは今まで聞いたことがないような魚を美味しく捌いてもらえるので、これから平戸病院で研修する先生方は、ぜひ一度足を運んでみてください。おすすめですよ-----!

白田 祥子 (横浜労災病院)

村井 駿 (彩の国東大宮メディカルセンター)

井元 裕子 (西神戸医療センター 前半)

宮田 智弘 (西神戸医療センター 後半)

軍艦島は一度は足を運んでいただきたいスポット



柿添病院

有名な中国の古諺がある。

「一時間、幸せになりたかったら酒を飲みなさい。

三日間、幸せになりたかったら結婚しなさい。

八日間、幸せになりたかったら豚を殺して食べなさい。

永遠に、幸せになりたかったら釣りを覚えなさい。」

夜には涼しい風が吹きはじめる九月頭、私は静岡より遙か1200km、長崎県平戸市へと車を走らせていた。地域研修での1ヶ月間を幸福に過ごしたかった私は、上の諺を思い出した。平戸はおろか長崎すら足を踏み入れるのは初めてであった私が、休憩含め二十時間近くを費やし、ようやく着いた平戸でまず見に行ったものは海であった。平戸の海を「見る」のははじめてではなかった。平戸に住む人々には余計な御世話だろうが、おそらく日本人のほとんどは平戸を知らない。だが私は平戸を知っていた。---釣りを覚えたからである。知っての通り平戸は釣りの聖地と呼ばれている。その筋の番組を日夜録画しては、幾度も平戸の海を画面を通して「見て」いた。ようやく着いたのは日曜の夕方。近くの堤防に立ち下を覗き込んだ私は驚いた。水底まで見通せる程に透き通った海が広がっていた。生命に溢れ色鮮やかな魚達の群れが私を出迎えた。気配を感じ後ろを振り向くと野良猫が微笑んでいた。秋めく夕陽に暖められながら、九月を幸福に過ごせるであろうことを予感した。

研修医は私含め3人であった。お互い気を遣ったのは最初の1日だけであった。仕事が終わればやることもなく、暇を持って余り利害が一致した我々は散々同じ時間を共有した。この1ヶ月を共に過ごしたのが彼らでよかった。

地域医療というものが初体験であった私は驚いた。外科医が脳卒中を診る。てんかんを診る。心不全を診る。1ヶ月も経つと慣れてしまったが、自分の病院では有り得ない光景に度肝を抜かれ、非常に多くを考えさせられた。しかし時には限界があり、転院搬送に同行することもあった。受け持ちはなぜか重症感ある患者様が多く、助けを求める場面も多かった。しかしどの先生も、どんなに忙しくとも必ず話を聞いてくださり、アドバイスをくださった。彼らの底力で病院が支えられていることがすぐに理解された。

旅の恥が掻き捨てかどうかはさておき、どうぞ1ヶ月しかいないのだからと色々と院内各部署を訪ねた。リハビリ室で体幹を鍛えたり、忙しい看護師をつかまえて話しかけたり、薬剤部へ積極的に剤形の相談にいったりした。スタッフ同士の垣根が非常に低いと感じた。そのうちに、向こうから直近の釣り情報を教えてくれるようになった。

乳児健診や訪問リハビリ、訪問診療、施設の見学など、地域研修ならではの日々を過ごす中、時間を見つけては竿を持って海へと向かった。唯一心の拠り所である研修医2人は土日に来る度に福岡へと戻ってしまうため、他に時間を潰す方法も見当たらなかった。ちょうど平戸にアゴが入ってくる季節と重なり、海は魚でも釣り人でも賑わっていた。天候には恵まれなかったが、平戸の海は朝も昼も夜も何度もかけがえのない感動を与えてくれた。釣りを覚えると一緒に幸せになる理由が、平戸でようやく分かった。釣りが、私たちに一生忘れ得ない出会いを与えてくれるからなのだろう。私は魚の中でもアジが一番好きで、アジになりたい。

末筆となりますが、1ヶ月間ご迷惑もおかけしつつも、優しく迎え入れてくださり、お世話になり、学びのチャンスを与えてくださった柿添病院の全スタッフの皆様にご心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

近間 洋治 (九州中央病院)

三ツ石 祐太 (九州医療センター)

諸井 條太郎 (静岡済生会総合病院)



発行：ながさき県北地域医療教育
コンソーシアム
平成28年9月30日
URL：<http://agonet.jp/>